

2018 西南神学生だより



新年度が始まり、新たな仲間と共に新しい歩みがスタートしました。私たちを学び舎に送り出し、また祈りや様々な支援でもって支えてくださっている全国の教会・伝道所の皆様には、心から感謝申し上げます。今年度の西南学院大学神学部・大学院神学研究科の神学生を紹介します。私たちのことを少しでも身近に感じていただければと思います。

2018年度西南学院大学神学部学生会

夏期・春期神学生研修受け入れのお願い

全国の教会・伝道所の皆様、いつも祈り支えていただきありがとうございます。
私たちは、皆様との交わりや実践を通して学びを深めたいと願っております。夏季休暇などの長期休暇を利用して、皆様のもとでご奉仕できたらと思います。是非お声かけください。

なお派遣できる学生数が限られているため、ご要望に添えない場合がありますことをご了承ください。

【学生休暇期間】 夏季休暇 8/8(水)～9/13(木) 応募締切：7/9
春季休暇 2/1(金)～3/29(金) 応募締切：1/9

*休暇中においても集中講義などがあり、神学生のスケジュールの調整ができない場合があります。

【申込み先】 〒814-0015 福岡市早良区室見2-11-26
西南学院大学神学部寮気付 対外委員会 委員長：原田 賢
E-Mail：swtaigai@yahoo.co.jp

【連絡事項】 ①教会名 ②担当者名 ③希望日程 ④希望人数 ⑤奉仕内容
⑥交通費等の支援 ⑦連絡先(電話、メールアドレスなど)

～ 新 入 生 ～

神学部 3年 奥村 献 (おくむら ささぐ)

推薦教会：恵泉バプテスト教会 研修教会：鳥飼バプテスト教会



いつもお祈りとお支えをありがとうございます。皆様のお祈りに支えられ、4月から神学部での学びが始まりました。神学寮の勉強室をはじめ、新しい図書館など、整えられた学びの環境が与えられている事を心から感謝をいたします。神学の学びはもちろん、様々な出会いの中で自分自身を問い直しつつ、砕かれ、成長する事を願っています。大きな期待の反面、生活上の不安もありますが、主が一つ一つを備えてくださる事を信じつつ歩みます。今後ともお祈りとお支えをよろしく願いいたします。「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。」マタイ 6：33

神学部 3年 嶋田 健治 (しまだ けんじ)

推薦教会：直方バプテストキリスト教会 研修教会：直方バプテストキリスト教会

主の御名を賛美致します。多くの方々の祈りと支えがあり、神学部での学びが許されていることを心より感謝致します。今年の春に入学をさせて頂いた嶋田健治と申します。

最初の一年の学びは、神学の基礎を築くことが目標です。その為にも授業での学び、多くの神学書を読むこと、実践における学びとを誠実に励んでいきたいです。そして、すべての人に与えられている福音について深く考察し、実践させていただければと思います。

これからも、主と共にいて、支えてもらっていることを忘れず歩んでいきたいです。



神学部 1年 原田 仰 (はらだ こう)

推薦教会：平尾バプテスト教会 研修教会：平尾バプテスト教会



この度、神学部一年生として入学しました原田 仰と申します。神様の導き、多くの方々の祈り、支えによってここまで歩んでくることができましたことを感謝します。まだ、高校を卒業したばかりで精神的にも幼く、社会人経験もございません。ただ、そんな今だからこそできる学びがあり、その学びこそが神様の計画なのかもしれません。今、与えられている出会い、学びに感謝します。これから用意されていること一つ一つを、感謝して神様に依り頼み歩んでまいります。よろしくお願いいたします。

選科1年 千葉 仁志 (ちば ひとし)

推薦教会：小倉春ヶ丘バプテスト教会 研修教会：小倉春ヶ丘バプテスト教会

主の御名を賛美いたします。皆さまのご支援と、いつも祈りに覚えていただいていること、そして、学びの機会を与えてくださったことを心より感謝いたします。入学してもうすぐ1ヶ月になろうとしています。神学部チャペルや朝の寮礼拝、全学チャペルと、私たち神学生は月曜から金曜まで1日に1回か2回、午前中に必ず礼拝があります。礼拝から始まる1日はなんと幸せなことでしょう。主に愛されていることを感じながら弟子たちの足を洗ったイエスさまのように、僕のように仕えるものとして用いられますように、しっかりと学んでいきます。



選科1年 藤原 紅葉 (ふじはら もみじ)

推薦教会：平尾バプテスト教会 研修教会：平尾バプテスト教会



初めまして。新しく神学生として入学しました、藤原紅葉と申します。「人々に福音を伝えるだけでなく、あなたと同じように家族によって負った心の傷を持った人々に寄り添いなさい。恐れることは何もない。聞き従え。聞き従いなさい。」という召命感をもとに、さらに、皆さまの多くの祈りと尊い献金で今、私がここにいることを感謝しながら、西南学院大学で精いっぱい学ばせていただきます。よろしく願いいたします。「わたしの口から出るわたしの言葉も、むなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ、わたしが与えた使命を必ず果たす。」イザヤ書 55 章 11 節

特別研修生 林 守鎮 (いむ すじん)

推薦教会：鳥飼バプテスト教会 研修教会：鳥飼バプテスト教会

大学生の時、Campus Crusade for Christ (CCC) という大学生伝道団体のメンバーになって、伝道の活動と海外宣教経験を通して、日本伝道のビジョンが与えられました。大学卒業後、同じビジョンを持っていた連れ合いと結婚して、CCC 宣教師として福岡で伝道の働きをしました。大学生の伝道活動、教会でのハンゲル講座、韓国の短期宣教チームの案内などの活動をしながら6年間過ごしました。その後、韓国に一旦帰国して日本への伝道の働きの道を祈り求める中で、しっかりと神学の学びをして日本の伝道に仕えたいと願い、西南学院神学部への入学を考えるようになりました。4月から、研修生の聴講生として神学部で学ぶことが許され、日本伝道のための道が開かれました。日本で神様の事を学びながら、もう一度主に仕えたいと思っています。



～ 在 校 生 ～

大学院博士前期課程1年 川久保 拓也（かわくぼ たくや）

推薦教会：ふじみ野バプテスト教会 研修教会：姪浜バプテスト教会



私にとって神学部3年目の今年は、様々な意味で再出発の年となりました。学部での2年間の学びを終え、大学院での新たなる学びの始まり。新たな研修教会での学びの始まり。そして、結婚しての家族寮での結婚生活の始まり。様々に変化してゆく環境や事柄、そこから与えられる示唆によって、自分自身が主によって変えられているということを実感しています。今年度は、修士論文執筆のための準備期間として、学部時代よりも神学的な視野を広げて学んで行きたいと思っています。キリストの要求に適った者とされていくようにお祈りください。

大学院博士前期課程1年 杉本 拓哉（すぎもと たくや）

推薦教会：宇都宮キリスト教会 研修教会：鳥飼バプテスト教会

神学寮2階の端、机と本棚とベッドと収納がある7.5帖の空間が私の祈りの部屋です。この部屋での生活も3年目を迎えました。入学時には空気が目立った本棚も、教科書・辞典・注解書・ノートで満杯となり、溢れた本のために先日カラーボックスを追加しました。皆様のお祈りとご支援を受けて、寮生活・学校生活・教会生活において豊かな学びの日々を過ごしております。心から感謝します。

大学院での論文は、自死をテーマに取り組んでいきます。恐れや不安もありますが、主の光を頼りに歩んでまいります。栄光在主。



神学部4年 小櫻 信（こざくら まこと）

推薦教会：日本バプテスト大阪教会 研修教会：福岡ベタニヤ村教会



主の御名を賛美いたします。いつも祈り支えていただきありがとうございます。神学部での学びが許されている事を心から感謝いたします。昨年度は人の弱さ・脆さを体験しましたが、どのような時も主なる神様が私たちと共にいてくださるということ信じ、3年目の学びの時を主に委ねます。今年度も被災地支援を継続しつつ、主と共に歩んでいきたいと思えます。

「わたしは、強く雄々しくあれと命じたではないか。うろたえてはならない。おのいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる。」

(ヨシュア記1章9節)

神学部4年 高橋 周也（たかはし ひろや）

推薦教会：花小金井キリスト教会 研修教会：鳥飼バプテスト教会

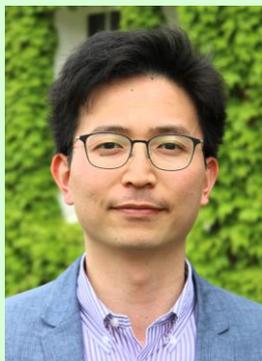
何の役にも立たないはずの5つのパンと2匹の魚は、イエス様に受け止められ、驚くべきことに、感謝をもって祈られ、裂かれました。このイエス様のお姿を見る時、今、これを読み、その主イエスのお祈りに加わってくださる皆様のことを思います。それは、はじめの一年を終え、自分が身を裂かれるつもりであった私の献身は、ことごとく皆様が神様に献げてくださった祈りによって生かされてきたものであったことに、ハッと気づかされたからなのです。

神学生2年目ーこれから更に、この地に行われる主の業を楽しみにしつつ、学び続けたいです。



神学部4年 西本 詩生（にしもと しなる）

推薦教会：恵泉バプテスト教会 研修教会：鳥栖キリスト教会



ある授業の中で「自立」という考えは聖書にはなく、一貫して「他者と共に立つ」という考えが語られていることが共有されました。最初は腑に落ちない考えでしたが、社会の動向を通して聖書を読み進めていくと、本当にそうだなと思わされています。

ときには、みんなで立とうとしない私がいるように思います。でも、そこにも神さまが共におられるのです。隣人に気づくようにと促しているのです。特に、押し倒されて、自分だけでは起き上がれない隣人に気づくようにと。その押し倒された人々が立てたときに、私たちもはじめて立つことができるのだと、聖書は語っているように思われています。

大切な学びの時が与えられていることを、心より感謝いたします。

神学部3年 安里 道直（あさと みちなお）

推薦教会：東風平バプテスト教会 研修教会：バプテスト東福岡教会

沖縄を出て3年目。だんだんと分かってきたことの一つは、自分の視野の狭さ。信仰、聖書、教会、人間、社会、あらゆるものを見る自分の視野が、いかに狭かったかを思わされる。

もう一つは、沖縄の痛み。戦闘機の下で育った私は、痛みを感じなくなっていた。怪我をしても、「ほんのかすり傷だ。命が助かってよかった」と思っていた。例え、手足がちぎられていたとしても・・・。

ここに来て、沖縄のために心痛める多くの人と出会った。そして気付かされた。「ああ、手足がちぎられていたのか」と。



選科3年 原田 賢（はらだ けん）

推薦教会：大宮バプテスト教会

研修教会：日本バプテスト春日原キリスト教会



神学部での学びも3年目となりました。ますます深みを増していく神学の学びに驚かされ続けています。しかし学ぶだけではなく、その神学を学んだ私はどのように生きるのか、ということが同時に問われ続けています。「キリストの教会」として生きる一人一人と、私が「牧師」として共に生きていくとはどのようなことなのか。そして私たち「キリストの教会」が日々出会わされている様々な人たちと共に生きていくとはどのようなことなのか。そのようなことを、神学部での学びはもちろん、日々のあらゆる出会いに学ばされながら歩みたいです。

～ 卒業予定者 ～

大学院博士後期課程3年 城 俊幸（たち としゆき）

西戸崎キリスト教会 牧師



福岡に来て早7年。雨の日も雪の日も、図書館と大学院棟と神学寮と西戸崎教会の往復が、私の日常となった。須藤伊知郎先生の指導のもと博士論文「パウロの聖書引用とその解釈」で提出予定まで漕ぎつけた。昨年は「パウロにおける「異邦人のシオン巡礼」のイメージ」「パウロのラビ的解釈」を新約学会で発表。旧約引用112節をヒントにパウロの福音理解（約束・救い・義・信仰）を見つけては拾い上げ、論文にする作業を続けている。師青野太潮先生の後を追いかけているつもりだが、未だその足跡すら見つからない。

大学院博士前期課程2年 元川 信治（もとかわ しんじ）

推薦教会：調布バプテスト教会 研修教会：福岡西部バプテスト教会

3年の歳月をかけて論文執筆に取り組んでいます。これまでの教会生活の中で、私自身、何気なく用いて来た「福音」を問い直す研究をしています。特に、宣教、教会形成の観点から、聖書が「福音」として私たちに伝えようとしていることは何なのか、を追究しようと努めています。

少し静まってこれまでを振り返るとき、キリスト教会の交わりに迎えられてから今日に至るまで、主なる神さまの恵みと憐れみ、忠実さ、そして、それらをもつて示してくれている主にある兄弟姉妹の愛と忍耐、寛容には、しみじみと感謝と驚嘆を覚えます。

主が遣わされる場所であれば、どこへでも行き、御旨であれば、いつでも仕



え、ただ御心のままに用いられることを願って、始めた神学部での学び。この決意に、信実でありたいです。

大学院博士前期課程2年 永山 辰原 (ながやま ときはら)

推薦教会：福岡西部バプテスト教会 研修教会：鳥栖キリスト教会

神学部に入學して4年目の学びに入りました。これまで支えて下さった皆さんに感謝いたします。8月よりドイツの大学院で神学の学びを続けることになりました。さらに学びが続くこととなりますが、その恵みに心より感謝しております。

この3年を振り返ると、様々なことがありました。その出来事すべてに神様が生きて働いていることを実感してきました。学び、生活、必要なものは整えられてきました。同時にたくさんの痛みと悲しみもありましたが、神の前に、そして人の前に立つに当たって、それらも必要なことだったと思います。そして今、ドイツへの道が開かれました。様々な経験をしたいと思います。これまで同様、神様がすべてを整えて下さると信じています。引き続きさらに成長していけたらと思います。これからも私たち神学生へのお祈りとお支え、よろしく願いいたします。



大学院博士前期課程2年 平野 健治 (ひらの けんじ)

推薦教会：大井バプテスト教会 研修教会：長住バプテスト教会



最終学年の論文のテーマは「主の祈り『我らの日用の糧を今日も与えたまえ』の今日的解釈—生存と公正を求める祈りへ—(仮)」としました。私がこれまで神学校で学び、悔い改めていることは、どのようにこのみ言葉が現代社会の中で響いてくるのかという視点が不足していたということです。この社会に目を向けると世界では8億人の人々が飢餓で苦しんでいます。飢餓人口は再び増加し、その原因はシリア難民や環境破壊によるものです。彼らはまさに今日の食べ物に欠いています。この祈りを“私の”ではなく“我らの”と祈るとき、その範囲は私の周辺から、世界全体に目を向けたものになってゆきました。そして私はもう一度この祈りを祈り、祈りを生きることができるかを、問われています。社会の出来事は聖書に語られる愛、正義、解放、平和、和解という事柄に無関係ではなく、直接関係する事柄です。み言葉が私の内面だけでなく、社会の中でどのような意味を持っているかをこの論文で問いたいと思っています。神学校での学びは最後の一年となります。良い学びができるように、また赴任において神様の導きがあるように、祈りながら歩いてゆきたいと思っています。

2018 西南神学生だより

発行日	2018年5月20日	編集	神学部学生会対外委員会
発行者	西南学院大学神学部学生会	E-Mail	swtaigai@yahoo.co.jp